様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：３４４１６
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ２３２０９

研究課題名（和文）昭和初期の農村家計における生産・消費行動の分析

研究課題名（英文）An Analysis of Production and Consumption Behavior of Rural Households in the Early Showa Period

研究代表者
松田　絢子（Matsuda, Ayako）

関西大学・経済学部・准教授

研究者番号：３０７５２１０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：申請者は昭和初期の農家を対象に行われた家計調査のデータベース化を進めた。具体的には農業経済調査簿のうち、地方概況、調査項目記入欄、世帯員情報に関する記述の整理を進めた。日誌には各世帯員それぞれの日々の作業内容（農業・養蚕・公務・家事・余暇の内容等）及び種目印とその作業時間が手書きで記されている。手書き部分の翻刻に難航しているものの、可能な限り効率的に進め、世帯員情報、生産行動、売買行動、交流活動、世帯内役割分業、雇人の雇用とその仕事内容などがデジタル化された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
昭和恐慌の分析はこれまでも研究が行われてきたが、利用できるデータに限界があり、頑健な定量的手法に基づいた研究は少ないのが現状である。本研究では、これまでに使われてこなかったパネル・データとして「農家経済調査簿」を用いた。本データは、京都帝国大学によって収集され、近畿地方の104家計について、恐慌前を含む1927年から1933年の家計所得・資産・消費・農業経営状況、各家計構成員の毎日の労働内容・労働時間を含む詳細が網羅されている。本研究において申請者は、マイクロフィルムからスキャンされた全調査簿のPDFデータを分析可能な形にするために独自のデータベースを構築した。

研究成果の概要（英文）：I have partially completed digitalization of agricultural household surveys conducted in the early Showa period. Specifically, I have been organizing the descriptions of family roster, region and location information. The logbooks include handwritten descriptions of each household member's daily work (farming, sericulture, official duties, household chores, leisure time, etc.), and the hours worked. Although there were difficulties in reading the handwritten records, the process was carried out as efficiently as possible and information on household members, production and trading behaviors, leisure activities, division of labour within the household, employment of hired persons and their job descriptions were digitized.

研究分野：家計行動の経済学

キーワード：開発経済学　農業経済学　労働経済学　経済史　家計調査

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

家計の生産・消費行動の分析は経済学における重要課題である。所得水準が相対的に低い農村家計においては、金融ショック等の外的要因の影響は特に深刻であり、申請者の専門とする農業経済学を中心に既存研究が蓄積されてきた(Bardhan and Udry, 1999)。本研究では、明治以降の日本経済において最も深刻な影響を及ぼしたものの一つとして、1929年に始まった昭和恐慌に注目する。当時の農村では米作・養蚕を中心とした第1次産業が主体であったが、恐慌により、米国向け生糸輸出が激減し、農村家計は大きく影響を受けた。しかし、従来の研究では定性的な分析が中心であり、因果関係を特定する精確な計量分析は少ない。また、後述のように所得や経営状況に関する分析は行われてきたもの、従来の研究ではサンプル数・調査年・調査項目に限界があり、所得・消費行動の包括的な分析は困難であった。

２．研究の目的

昭和恐慌の分析はこれまでも研究が行われてきたが、利用できるデータに限界があり、頑健な定量的手法に基づいた研究は少ないのが現状である。本研究では、これまでに使われてこなかったパネル・データとして「農家経済調査簿」を用いる。本データは、京都帝国大学によって収集され、近畿地方の 104 家計について、恐慌前を含む 1927 年から 1933 年の家計所得・資産・消費・農業経営状況、各家計構成員の毎日の労働内容・労働時間を含む詳細が網羅されている。本調査は既に一次資料が公刊されているものの(不二出版, 2006)、申請者の知る限り、これを用いた恐慌に関する先行研究は存在しない。本研究において申請者は、マイクロフィルムからスキャンされた全調査簿の PDF データが既に利用可能である。申請者はまず、これを分析可能な形にするために独自のデータベースを構築する。日誌から構築されたパネル・データを用いて各家計特有の要因をコントロールすることで、恐慌が農村家計に与えた影響を包括的に検証することを目的とする。

３．研究の方法

業務委託やデータ入力アルバイトを複数人雇用し、翻刻作業を行った。新型コロナウィルス蔓延により、データ入力アルバイトの雇用が難航し、進捗に遅れが生じている。

４．研究成果

申請者は農業経済調査簿のうち、地方概況、調査項目記入欄、世帯員情報に関する記述の整理を進めた。日誌には各世帯員それぞれの日々の作業内容（農業・養蚕・公務・家事・余暇の内容等）及び種目印とその作業時間が手書きで記されている。手書き部分の翻刻に難航しているものの、可能な限り効率的に進め、世帯員情報、生産行動、売買行動、交流活動、世帯内役割分業、雇人の雇用とその仕事内容などがデジタル化された。

さらに、申請者は同調査簿のうち、北丹後（奥丹後）地震に関する記載のデータベース化を重点的に行っている。北丹後地震は昭和 2 年（1927 年）3 月 7 日夕刻に丹後半島にある郷村断層・山田断層を震源として発生（M7.3 直下型）し、兵庫県豊岡市、京都府宮津市・京丹後市・与謝野町で震度 6 を観測した。建物倒壊等による被害に加え、地震発生時刻にかまどやたき火が多く使われていたことから火災による被害が多く発生し、これらの地域では、死者・負傷者合わせて約1万人、住宅被害 17,000 戸余と推定されている。さらに大阪市内でも停電が起き、電話一部不通など、大規模な被災状況が報道された。調査簿にはガレキの撤去作業、葬儀、義捐金、救援作業が多く記載されている。屋根に積雪があったことで建物の倒壊被害が一層甚大になったことや、地震発生翌日には大雨が起き、屋外での避難が困難になったことも読み取れる。申請者はこうした貴重な資料のデータベースを進めており、得られた結果を元に、昭和初期日本の農村と途上国農村のショックに対する回復過程を実証的に比較することが可能となり、農業経済学・経済史を統合した重要な知見を提供できると考えている。

参考文献：

Bardhan, P., Udry, C. (1999) Development Microeconomics, Oxford University Press.
不二出版（2006）『農業経済調査簿』原本：京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻所蔵。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 松田絢子（小原美紀との共著）	４．巻 -
２．論文標題 昭和初期における近畿農村家計の世帯構成の変遷 ―京都帝国大学による『農業経済調査簿』をもとに―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 国際開発学会第21 回春季大会 ヴァーチャル開催 報告論文集	６．最初と最後の頁 43-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Ayako Matsuda, Keitaro Aoyagi, Takako Mochizuki and Miki Uematsu	４．巻 1901
２．論文標題 Financial Inclusion and Female Empowerment: Evidence from Honduras	５．発行年 2019年
３．雑誌名 MWC Research Paper	６．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 松田絢子
２．発表標題 昭和初期における近畿農村家計の世帯構成変遷―京都帝国大学による『農業経済調査簿』をもとに―
３．学会等名 国際開発学会第21回春季大会（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 松田絢子
２．発表標題 "Financial Inclusion and Female Empowerment: Evidence from Honduras"
３．学会等名 早稲田大学 現代政治経済研究所 ランチセミナー
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関